

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回 所沢市保健医療計画推進委員会
開 催 日 時	令和5年8月24日(木) 18時30分から20時30分
開 催 場 所	所沢市役所 8階 大会議室
出 席 者 の 氏 名	※別紙 「所沢市保健医療計画推進委員会 委員名簿」のとおり
欠 席 者 の 氏 名	
説明員の職・氏名	様式第2号発言者のとおり
議 題	(1) 委嘱状交付(新委員) (2) 第2次所沢市保健医療計画令和4年度取組状況評価シート (案)【第3章～第5章】の確認について (3) 所沢市市民医療センター再整備基本計画について (4) その他
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・会議次第 ・所沢市保健医療計画推進委員会委員名簿 ・所沢市保健医療計画推進委員会条例 ・所沢市保健医療計画推進委員会の公開及び会議録の取扱いについて ・資料1-1 第2次所沢市保健医療計画令和4年度取組状況評価シート【第3章～第5章】(案) ・資料1-2 説明要旨 ・資料1-3 市の新型コロナウイルス感染症対応について ・資料2 所沢市市民医療センター再整備基本計画について ・資料3 令和5年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュール ・資料4 意見シート

担 当 部 課 名	健康推進部	部 長	越智 三奈子
		次 長	大出 久美
		保健センター長	中村 まさみ
		保健医療課長	河西 秀樹
		保健医療課主査	佐藤 征逸
		保健医療課主査	八川 麻紗子
		保健医療課主任	日野 航介
		保健医療課主任	落合 健矢
		保健医療課主任	小室 明日香
		健康管理課長	松井 優子
		健康管理課主幹	
		(こころの健康支援室長)	小野寺 健
		健康管理課主幹	
		(新型コロナワクチン対策室長)	中山 倫宏
		健康づくり支援課長	岩雲 美香
	市民医療センター 事務部長	林 誠	
	総務課長	粕谷 憲之	
	総務課副主幹		
	(市民医療センター再整備推進室長)	武政 直行	
	事務局 健康推進部保健医療課 電話：04(2998)9385		

※別紙 所沢市保健医療計画推進委員会 委員名簿

No.	所 属	氏 名	出欠	備 考
1	公募委員	小野 佑季	○	
2	公募委員	佐竹 良二	○	
3	公募委員	小平 由美子	欠	
4	公募委員	稲田 武子	○	
5	所沢市医師会 会長	赤津 拓彦	○	※委員長
6	所沢市歯科医師会 副会長	北田 徳克	○	
7	所沢市薬剤師会 副会長	塚本 京子	○	
8	所沢市柔道整復師会 会長	河合 是幸	○	
9	所沢市鍼灸師会 会長	原澤 清一	○	
10	所沢市母子愛育会	平塚 由子	○	
11	所沢市食生活改善推進員協議会 会長	丸山 静香	○	
12	所沢市スポーツ推進委員会 副会長	須藤 貢	○	
13	所沢市社会福祉協議会 事務局長	荻野 亨	○	
14	早稲田大学 教授	扇原 淳	○	※副委員長
15	知識経験者	二上 清次	○	
16	狭山保健所 所長	辻村 信正	○	
17	狭山保健所 副所長	田島 貴子	欠	
18	埼玉西部消防局 中央消防署参事	田辺 隆	○	
19	市民医療センター長	黒木 康富	○	

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局（河西）	<p>（開会）</p> <p>本委員会は、本市の保健及び医療等の施策を推進していくことを目的に、そのための指針となります「所沢市保健医療計画」の進捗状況を定期的に点検・評価するとともに、計画推進に関する意見等をいただくために設置しているものでございます。</p> <p>様々な立場から本市の保健・医療施策に対して幅広いご意見をいただけるよう、公募による市民、関係機関、関係団体の代表者、学識経験者等の皆様に委員をお願いしております。</p> <p>（委嘱状交付）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、あらかじめ机上に交付（人事異動等により保健医療計画推進委員4名の方の変更。黒木委員は市職員のため委嘱状交付はなし。田島貴子委員は欠席連絡あり）</p>
委員	<p>（新委員4名による自己紹介）</p>
事務局（河西）	<p>任期については、所沢市保健医療計画推進委員会条例（以下、条例）第4条の規定により、前任者の在任期間（～令和6年6月30日）となります。</p>
委員一同	<p>（自己紹介）</p>
事務局	<p>（自己紹介）</p>
事務局（河西）	<p>本日の委員会ですが、都合により2名の委員が欠席されています。出席者が17名で、過半数を超えておりますので、条例第6条第2項の規定により、委員会が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p>
赤津委員長	<p>（挨拶）</p>
事務局（河西）	<p>（配布資料の確認）</p> <p>次に、「所沢市の会議の公開に関する指針」に基づきまして、本委員会の公開及び会議録について、確認させていただきます。</p> <p>前年度と同様、本委員会は公開とし、「会議録は要約方式」、「発言</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員一同	<p>者は委員名を記載」、会議録は「委員長の承認をもって確定」とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>（全会了承）</p>
事務局（河西）	<p>（本日の議事の説明）</p> <p>それでは、ここからの会議の進行につきましては、条例第5条第2項の規定により、委員長が議長となります。</p> <p>赤津委員長、よろしくお願いいたします。</p>
赤津委員長	<p>それでは、議長を務めさせていただきます。</p> <p>事務局に確認ですが、本日の傍聴者はいますか。</p>
事務局（落合）	<p>傍聴者の方が1名いらっしゃいます。</p> <p>（傍聴者入室）</p>
赤津委員長	<p>傍聴者の方をお願いいたします。資料と一緒に配布しております傍聴要領に従い、傍聴席では静粛をお願いいたします。会議の妨げとなりませんよう、ご発言は控えていただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、議題に移ります。</p> <p>議題（2）「第二次所沢市保健医療計画令和4年度取組状況評価シート（案）の確認」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局（日野）	<p>（資料1-1 第2次所沢市保健医療計画令和4年度取組状況評価シート【第3章～第5章】（案）、資料1-2 説明要旨、資料1-3 市の新型コロナウイルス感染症対応、及び資料4「意見シート」について説明）</p>
赤津委員長	<p>昨年度議題となった、数値が上がった場合に良い評価となる指標と、下がった場合に良い評価となる指標について、評価の仕方をご説明いただけますか。</p>
事務局（日野）	<p>定量的な指標の評価について、基本的には目標に対し、実績の数値が上がれば上がる程良くなる指標が多くを占めておりますが、いくつかの</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>指標については「減少を目標とした項目」のため、逆に目標に対し、実績の数値が下がれば下がるほど良くなる指標もございます。</p> <p>（例：第1章第1節（2）成人の喫煙率の減少（喫煙をやめたい者がやめる））</p> <p>本日は第3章から第5章の確認となり、下がると良くなる指標については第1章、第2章の範囲にて該当があるため、具体的な考え方や算出方法については、第2回推進委員会にて説明させていただきます。</p> <p>それでは内容に入らせていただきます。</p> <p>第3章から第5章と市の新型コロナウイルス感染症についてご説明がありました。まず第3章について、ご意見がありますでしょうか。</p>
荻野委員	<p>全体としてですが、主な取組実績については令和3年度にも同じものを行っていると思います。その中で、令和4年度から新しく行った主な取り組みは事務局から最初に説明していただいた方がいいと思います。</p>
赤津委員長	<p>令和4年度から新たに行った取り組みはありますか。</p>
事務局（日野）	<p>（資料1-1、令和4年度取組実績について説明）</p> <p>次回以降、新たな取組実績がわかるよう説明させていただきます。</p>
赤津委員長	<p>総合計画など、計画の大きな構成については、議会を通して認定されているため、保健医療計画についても、そう簡単に新しい項目を立てることはできないのではないかと想像します。</p> <p>新たな取り組みを実施した場合は、またご説明があると思います。</p>
平塚委員	<p>母子愛育会は大部分がボランティアで活動しているので、高齢者が多くなりましたが、保健センターのお手伝いをさせていただく形で健康のために協力していこうと思います。</p>
赤津委員長	<p>それでは細かく区切ってご意見を伺うことにします。</p> <p>（第3章医療提供体制 第1節 小児医療・周産期医療（1）小児救急医療（初期・二次））</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員一同	<p>評価としては今まで対応できていない日があったが、すべて対応できたということで「充実」ということになっています。</p> <p>365日全てカバーできるようになった。これは「充実」ということで良いかと思いますが、意見がございましたらお願いします。</p> <p>（全会了承）</p>
赤津委員長	<p>それでは、本箇所については事務局案のとおりとします。もしご意見があるようでしたら、後日意見シートをご提出ください。</p> <p>（第3章医療提供体制 第1節 小児医療・周産期医療（2）周産期医療充実のための関係機関との連携）</p> <p>健康づくり支援課などが一生懸命取り組みを実施されているとのことですね。</p> <p>取組実績については「一」となっており、新型コロナ感染予防のため審議会や会議が開催できなかったとなっております。</p> <p>この項目は災害時医療でも重要で、妊婦さん、新生児、親子関係が注目を浴びています。お母さんが、産後うつになっているという問題もあるため、検討しなくてはならない分野ですので、ぜひ再開していただきたいです。おそらく市もその方向で努力をしていただけたと思います。</p> <p>（第3章医療提供体制 第2節 救急医療（1）初期救急医療体制）</p> <p>本箇所については休日の急患当番医と、二次救急を所沢市としては一生懸命取り組んでいるところでございます。</p> <p>休日当番医は医師会が輪番で取り組んでいますが、コロナの感染拡大時には一日50人や100人単位で受診があったと聞いています。</p> <p>しかし、「何でもっと早く診れないんだ」と言う患者さんがおり、医療従事者としてやる気がなくなっていく。これはおそらく医療介護福祉すべての分野にかかわっている人の悩みではないかなと思います。</p> <p>これは消防も一緒ですね。消防も大変な思いをして患者さんをお迎えに行くも、入院先の病院が見つからないと「死んだらどうするんだ」などの言葉を平気でかける市民がいます。市民感情のようにも思えます。</p> <p>それでは、初期救急医療体制について、定性的な評価ということで継続しているので「〇」となっていますが、いかがでしょうか。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>委員一同</p> <p>赤津委員長</p>	<p>（全会了承）</p> <p>今のところは医師会の医師たちも協力的で続けられています。ですが、医師会の医師たちも高齢化が進んでおり、コロナにかかったら自分の命がという年次になっている方もおいでになりますので、市民の適切な行動を非常に期待しているところであります。</p> <p>（第3章医療提供体制 第2節 救急医療（1）第二次救急医療体制）</p> <p>本箇所も令和2年、令和3年、令和4年と継続しています。</p> <p>第二次救急は、所沢地区として、所沢市、入間市、狭山市の3市の病院にご協力いただいて第二次救急の体制を立てています。実際のところ、埼玉石心会病院、所沢中央病院、所沢明生病院にはこれに関わらず救急を受け入れていただいています。基本的には2つから4つの病院が指定されており、第二次救急のご負担をさせていただいております。</p> <p>令和5年以降の問題として、二次救急病院を担っている所沢明生病院と狭山中央病院が、閉院、そして合併を予定しています。</p> <p>所沢明生病院が椿峰から新所沢に移転し、狭山中央病院は狭山市から新所沢に移転し、新しい病院ができます。</p> <p>各病院は地域の皆様の安心安全のために、不採算ながらも一生懸命頑張らせていただいております。</p> <p>小児救急についても、初期救急は所沢市民医療センターにとっても頑張らせていただいております。現在ではコロナ、RSウイルス、ヘルパンギーナや原因不明の発熱症状が出ている患者さんが山ほどいる中、倒れそうな状況まで追い詰められても頑張っておられます。医師たちには本当に頭が下がります。これが小児科の現状です。市民医療センターだけではなく、とあるクリニックでも「なんで診ないんだ」と文句言われながらも「みんなのためだから診ましようよ」という状況になっています。</p> <p>このような中で小児の救急医療も成り立ち、第二次救急、第三次救急でも活躍しているのは、この地域では西埼玉中央病院の小児救急で、新生児の医療もしっかりと対応いただいております。もう一つの第三次救急は、防衛医科大学校病院です。ここが所沢市の子どもたちをお守りいただいているところです。この地域は第二次救急体制については他と比べ充実していると思いますので、「○」ということになると思います。</p> <p>（第3章 医療提供体制 第3節 地域医療（1）地域医療の充実）</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
二上委員	<p>本箇所は健康づくりへの啓蒙を始めとした様々な活動であり、まさに政策として取り組んでいるものがあります。</p> <p>目標指標である所沢の看護専門学校卒業生の市内就職率については、目標50%に対し、令和4年度取組実績が51.2%なので、目標指標達成度が100%を超えています。</p> <p>しかし、本取り組みについては、涙ぐましい努力をされており、医師会として返還不要の奨学金を給付しています。お金がないけど勉強したいという子どもたちのために月3万円、1年で36万円、2年で72万円を給付しています。全員ではありませんが、審査をして、大体400～500万円の予算の中に抑えています。そうしないと地域を担う人材というのが確保できないのが現状です。「所沢市に就職する」という条件付きで医師会が奨学金制度を作っているの、実績が上がっています。</p> <p>東京都は他市に進学をしても、東京に戻って働いた場合には奨学金の返済が不要となります。残念ながら所沢市では東京都のような奨学金はありません。そのため、非常に苦しい状態で戦っているところです。皆さんにも知っていただければと思います。</p> <p>所沢市医師会の様々な取り組みをされていることと、目標指標について理解させていただきました。</p> <p>しかしながら令和7年度までに50%を目指すというところで表を見ますと、令和3年度は54.2%と、急激に上がって素晴らしい取り組みだと思います。一方で令和4年度は51.2%に下がっております。下がってしまった要因というのは何かあるのでしょうか。</p>
赤津委員長	<p>一つには入ってきた子どもが所沢出身だけではなく、他の地域から入ってくる人もいます。そうするとその人たちの就職先は出身地になることが多いです。そこを繋ぎ止めるために、奨学金制度を設けています。</p> <p>所沢市医師会では市の施設や病院、医師会所属のところに就職すれば奨学金をすぐには返さなくていいとし、2、3年務めれば返還不要にするという制度にしています。</p> <p>しかしながら、この数字は結構入れ替わってしまうと思います。特にこの地域は隣が東京都ですから、東京から来るのが比較的容易にできてしまう。東京から離れていると事情は異なるので、地元就職する人、人材がいれば増えると思います。</p> <p>これから少子高齢化になるので、みんなで支え合うような制度設計であれば、市民の皆様ご自身が社会貢献したいとの想いで入ってくれるといいなと思うのですが、なかなかそうはいかないのが現実です。入る人</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
河合委員	<p>数は非常に厳しいです。なので、定員を満たせない状況であります。</p> <p>看護師になりたいという人がうちの患者の中にもいるのですが、所沢市医師会の取り組みを伝えても構いませんか。</p>
赤津委員長	<p>看護師になる道が、所沢市医師会の学校の場合、准看護学院にて2年間で准看護師の免許を取ります。その准看護師の免許を取った人が2年制の全日制の看護専門学校に入ります。なので、西埼玉中央病院のように高校卒業した方が3年間で看護師になるというルートとは少々違っております。どちらかという生活が厳しい、だけど夢を追いたいという方が働きながら准看護師を取る。准看護師になって私はもっと勉強したいという方がまた次のステップに行くという道筋です。なので、宣伝していただけるのはありがたいのですが、そういったものです。</p>
河合委員	<p>こちらは女性のみでしょうか。</p>
赤津委員長	<p>人種、性別は問いません。年齢についても、一時は考えましたが60歳の人が入ったこともございます。社会貢献してくれるのであればと。</p>
河合委員	<p>ありがとうございます。</p>
赤津委員長	<p>（第3章 医療提供体制 第3節 地域医療（2）在宅医療の推進）</p> <p>本箇所については、コロナ関係で市民に対しての啓蒙・教育ができていないとありますが、在宅医療に関しての講演会は全く実施していないわけではなく、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）という人生会議についての講演会は何回か実施しております。</p> <p>要は人生の最終段階になってきた時にどのような生き方をしたいか、これについては在宅医療を伸ばしていかなければいけない。住民が参加していかなければならない話であり、知らないふりはできません。打ち出の小槌は無いということをみんなで共有しなければと思います。</p> <p>（第3章 医療提供体制 第3節 地域医療（3）リハビリテーション）</p>
赤津委員長	<p>本箇所については介護保険、医療介護福祉によるリハビリテーションの実施ということですね。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
二上委員	<p>在宅医療の推進の関係でお伺いしたい件があります。</p> <p>在宅介護とヤングケアラーの関係ですが、急性期が過ぎると、回復期に移ります。在宅医療を受ける状況で、家族による在宅看護が必要になってくると思います。こうした状況で、家庭の中に大人がおらず、子どもが担わざるを得ない、ヤングケアラーが問題になっていると思います。このヤングケアラーの支援について伺いたいです。</p> <p>近年ひとり親世帯が増え、例えばお母さんが癌に罹患し、手術をして、そのまま自宅で少し療養をする。そういった時に子どもは介護や家事を担わなければならない、というのがメディアで取り上げられていると感じます。子どもや若者は社会制度や色々な手続きについて大人と違って知識が少ないかと思います。こうしたヤングケアラーたちに対する情報提供や、窓口はどのようになっているのか、わかる範囲でお願いします。</p>
赤津委員長	<p>在宅医療というよりも、教育や福祉の観点を踏まえて、ぜひどのように取り組んでいるのかを教えてください。</p>
事務局（日野）	<p>市としてもヤングケアラーにつきましても子ども支援にも関わる重要な課題の一つと考えております。そしてヤングケアラーは、学業に時間を割くことができず、学力への影響が懸念され、部活動や友達と遊ぶ時間が奪われてしまうことから、交友関係が希薄になってしまい、孤独を感じる子どもが出てくるのも問題だと考えます。</p> <p>また、介護が必要な家族のケアなどで生活が昼夜逆転し、体調を崩してしまうケースもあるかと思えます。課題の一つに、その当事者が家族間の問題ととらえてしまう、本人や家族に支援が必要な状況だという自覚がないことで、外部に対して助けを求めないといったことがあります。市としては、ホームページでヤングケアラーに対する支援や相談先をご案内しております。</p> <p>支援にあたっては多くの目で早期発見することが重要だと思えますので、教育現場などとも連携をし、支援の取り組みを進めております。</p>
赤津委員長	<p>やはり大切な問題かと思えます。子どもが声を上げることができない時は、周りの人が気づいて取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>リハビリテーションについては取組実績が「○」で継続となっておりますので、後ほど読み返していただければと思います。</p> <p>（第4章 市の公立医療機関の役割 第1節 所沢市市民医療センター）</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>所沢市では公立の医療機関は「市民医療センター」と「歯科診療所あおぞら」の二つしかありません。</p> <p>それぞれ公立医療機関として果たすべき役割はどういうことか、あるいは、地域医療にどのように貢献しているかというところになります。</p> <p>市民医療センターについては地域医療、在宅医療への対応として、急性期の医療と地域包括ケア病床とあって、亜急性期で入院して、リハビリを実施して家に帰るといった機能を担っていると思います。</p> <p>その他、築四十何年ということでそろそろ建て替えを検討し、その準備にかからなくてはいけないこともあります。</p> <p>また、市民の相談にたくさん対応していることが書いてあります。</p> <p>現状、市民医療センターは、現在の事業を継続しながら今後を考えているのではと思います。</p> <p>小児救急について、24時間365日をすべてカバーしており、市民医療センターにも一生懸命対応していただいております。これはとても素晴らしいことであり、是非とも医師に万が一のことがない限り頑張っていたきたいです。働き方改革がどのように関わってくるのかが心配ですが、医師にサラリーマンと同じ働き方を求めたら、日本の医療は崩壊すると思います。なので、何か良い抜け道を考えているが、やはり働くと言われて働いたら法を犯すということになりますので、そのあたりどうなるのだろうかとなり、さびしい気持ちではいます。</p> <p>次に、健診事業ですが、市民医療センターでは、数多くの健診を受けています。これは所沢市の方針として健幸長寿というものに対しての一つのアプローチです。健診事業はどこの大きな病院でもほぼ黒字になります。患者さんと呼び込む一つの大元になりますので、健幸長寿という切り口としては所沢市としては引き続き継続していく方針のようです。</p> <p>（第4章 市の公立医療機関の役割 第2節 所沢市歯科診療所あおぞら）</p> <p>所沢市歯科診療所あおぞらについては、目標850人に対し、実績が下がってきているところが少し心配です。</p> <p>これは本来、障害のある子どもたちや、一般の歯医者では診ることのできない人たちを受け入れるということが発想の大元であったと思います。ところが、在宅診療、医者の世界でも在宅医療がだいぶ伸び、医者に行かなくても家に伺いますという、在宅歯科治療が増えています。</p> <p>あとは在宅で嚥下機能の訓練を歯科医師がやるというのが増えてきています。これが将来的にどのようなようになるのかは歯科医師会の先生方が一生懸命お考えになっているところなのではないかなと思います。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>（第5章 健康危機管理 第1節 感染症対策（1）国・県等の取り組みの情報収集・情報提供）</p> <p>感染症については、新型コロナウイルス感染症が二類相当だった当初、市民医療センターは頑なにコロナの受け入れを拒否していました。何回頼んでも受け入れていただけませんでした。</p> <p>しかしながら、幸いなことに五類感染症になった後は受け入れていただきました。おそらく方向転換を図ったのだろーと思ひます。市民が困っているところへ手を差し伸べるのが公的医療機関の役割であり、当然のことなので、よかつたなと思ひております。今後も感染症、新興感染症が発生した場合にはやはり前面に立っていただけるような、行政としての立場を担っていただけるのだろーと思ひます。</p> <p>目標指標は情報発信をきちんと継続して取り組んでいくことですね。あとはタイムリーな情報提供や、市として、行政としてできることを取り組んでいただくこととなります。</p> <p>（第5章 健康危機管理 第1節 感染症対策（2）新型インフルエンザ等対応）</p> <p>本箇所は事務局から先ほど説明いただきましたので、割愛します。</p> <p>（第5章 健康危機管理 第2節 災害時医療（1）地域防災計画に基づく対応）</p> <p>本箇所については、残念ながらキャパシティとしてどの程度対応できるかという、非常に寒々としたものがあります。</p> <p>例えば災害時の備蓄については、それぞれの病院はもちろん、市もあまり備えていないというのが正直な姿だと思ひます。</p> <p>私の病院でも、非常用電源、まともに使えば二日程度しか持ちませんので、どれくらいのものに耐えられるかというのは非常に怖いですね。</p> <p>しかし、防災無線で市役所本庁、保健センター、市民医療センター、医師会はつながることができる、連絡体制は整備されてきています。</p> <p>あとは実際に災害が起きたらという想定で、BCPという計画を立てることとなっています。しかしながら、実際には不可能ではないかというのが正直なところですね。災害が起きた時にはみんなで協力し、知恵を巡らせていかないと確実にダメなので、そうならないよう、みんなで頑張りましょう。その整備は少しずつしているということでございます。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局（佐藤）	<p>（第5章 健康危機管理 第2節 災害時医療（2）災害時の保健活動）</p> <p>災害時の保健活動ですが、これは実際に災害に遭ったときにはみんなで支え合うということで、実動訓練まで進んでいるというところですが、しかしながら、少なくとも行政として保健センターではきちんと防災訓練を実施したことが書いてあります。本来は市民レベルでみんなが参加していくのが大切だと思います。市民参加の低迷というのは非常に大きな課題ではないかとも思います。</p> <p>第3章から第5章は以上です。 ご意見がありましたらお願いします。</p> <p>「第4章 市の公立医療機関の役割 第2節 所沢市歯科診療所あおぞら」の件について、補足させていただきます。 おっしゃる通り人数は確かに減っておりますが、実際にはコロナの影響だと思います。本日もちょうど診療の状況を見させていただいたのですが、歯科医師会さんが本当に一生懸命運営していただいております、大変助かっておりますので、この数については次第に戻ってくるか、もしくは増えてくると考えております。</p>
赤津委員長	<p>素晴らしいことだと思います。やはり民間では手の届かないところを対応するのが行政だと思います。</p>
事務局（河西）	<p>続いて補足いたします。</p> <p>「第5章 健康危機管理 第2節 災害時医療」についてです。先ほど委員長がおっしゃった通り、災害時にどういったことを行うかは事前に決めておくことが大事だと思っております。昨年度所沢市では、地域防災計画を改訂いたしまして、市だけでなく関係団体や、市民の皆さんと一緒に、防災を進めていくという計画を作らせていただいております。</p> <p>今回、令和4年度の取り組みで保健センターの取り組みを記載はさせていただきますが、本庁においても部署ごとのBCPを整備いたしました。例えば医師会との連携ですとか、県との連携、災害時の救護所の設置に関するBCPを立てさせていただいております。</p> <p>まだ不完全ですが、しっかりと医師会と連携しながら組み上げていきたいと考えておりますので、ご協力お願いできればと思います。</p>
赤津委員長	<p>災害は忘れたころに、というよりも、いつ起きても不思議ではないと</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>というのがみんなの認識ですので、ぜひ進めていきたいと思います。 追加意見等がございましたら、意見シートにてご提出ください。</p> <p>それでは続いて、議題（３）所沢市市民医療センター再整備基本計画についてご説明をお願いいたします。</p>
説明員（武政）	（資料２ 所沢市市民医療センター再整備基本計画について説明）
赤津委員長	市民目線で市民委員の皆さんからご意見いただきたいと思います。
小野委員	<p>以前の会議でこういった話がされ、自分はもともと看護師の仕事をしてきたので、人が働くときにどういうデザインにしていこうかという際には医療者の意見を聞いてほしいと発言した気がします。ゾーニングのイメージといった資料を見て、この方が良い印象を受けました。</p> <p>細かい内容については特に当事者の方やデザインをする人たちがいるかと思いますが、私も子どもが二人いて利用させていただいているので、新しい市民病院を機能させることによって、今後もしっかりとした医療の提供を期待するところであります。</p>
佐竹委員	<p>本会議も３年目ですが、市民医療センターの建て替え等の話も進みました。早めに着手してもらえる建設の方法が望ましいと思います。</p> <p>意見も結構活発に議論され、専門の方が対応なさっているのですが、自分としてはこの計画に対してもっとこうすればいいという点はありませんが、建築費は今後も上がっていくことが想定されますので、早急に着手できるような方向でという希望があります。</p>
赤津委員長	小野委員はお子様がいる小児医療の継続を期待なさる。佐竹委員は、このプランは良いので早めに着手してほしいということだと思います。
稲田委員	現在の市民医療センターはだいぶ老朽化しているので、建て替えることは賛成です。私はあまり市民医療センターを利用したことがないのでよくわからないのですが、現状の３６５日小児科初期救急対応や、健診のレディースゾーンの設置は、とても良いと思いますので、早めに再整備を進めていただけたらありがたいと思います。
塚本委員	だいぶ診療機能等も決まって、あとは財政的な問題で進んでいくのではと思います。私も早く着手していただければありがたいです。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>いつも市民医療センターを利用していますが、事務方と医療方がもう少しコミュニケーションをとり、スムーズに対応していただけるとありがたいです。市民の一人としても早々に出来上がればと思っています。</p>
河合委員	<p>事務と医療のコミュニケーションをしっかりと図ってほしいというご意見です。</p>
赤津委員長	<p>私も、人間ドックをコロナ前までは市民医療センターで受けさせていただいていたのですが、対応がとても丁寧で、何度も言いますが本当に誠実さを感じます。引き続きお願いしたいです。胃カメラ検査がどうしても混雑しているので必ずバリウム検査を予約しますが、バリウムが飲めない方も結構多いと聞きます。ただ、対応はとてもよろしいと思いますので引き続きよろしく願いいたします。</p>
原澤委員	<p>引き続き誠実なサービス精神をこのままご継続いただきたいということと、胃カメラ検査を増やせないのかっていうことですね。</p>
説明員（武政）	<p>2年前に委員になり、かなりの意見交換があって、やっとまとまった資料が出てきて良かったと思うのですが、この資料の中で気になったのが、8ページ9ページ当たりですが、内科系疾患の需要を見込んでおり、小児の1泊入院を検討しているのに病床数を増やさないというのはどのような理由でしょうか。普通に考えると病床を増やした方がいいのではと思うのですが、その辺はいかがですか。</p>
説明員（林）	<p>病床を増やすには、県からの配分をいただく必要がございます。今の市民医療センターは構造的な問題等もありまして、病床利用率が50%台という状況ですので、手を挙げて病床の配分を受けられる保証がないという状況です。昨年度、西部保健医療圏で328床の病床公募というものがありましたが、こちらにつきましては令和7年度末までの設置ということが条件になっておりました。現在の49床を効率的に運用していきたいと考えております。</p>
説明員（林）	<p>補足でございます。ご質問は小児の夜間診療時に1泊入院の検討を進めているにもかかわらず病床数を増やさないのは何故かということかと思いますが、小児の1泊入院につきましては、診察をして、明け方まで経過観察を行い、状況に応じて翌朝にご帰宅いただくか転院していただくというようなものですので、あえて病床を増やす必要はないという</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>ようなものでございます。</p> <p>この1泊入院というのは入院ではなく、外来でくつろげるところを作るということですか。</p>
説明員（林）	<p>考え方はそれに近いと思います。</p>
赤津委員長	<p>オーバーナイトで過ごせる場所を作るということですね。原澤委員の病床を増やせないかというご質問ですが、これは県が権限を持っているので、現状の西部医療圏では難しい状況です。</p>
黒木委員	<p>市民医療センター長の立場として、現在の機能は維持しながらより強化をして、私は小児科医なのでオーバーナイトを実施することで地域医療に貢献をしたいと考えています。具体的には、市民医療センターが初期救急としてオーバーナイト、1泊の経過観察を行うことによって、第二次救急や第三次救急を担っている病院が、本来担うべき機能ダウンを避けたいと考えています。内科の方も健診部門を強化しながら内科ドクターを増強させたいと考えています。</p> <p>各委員からのご意見にもありましたが、可能な限り早急に再整備を進め頑張っていくますのであたたかくご支援いただければと思います。</p>
田辺委員	<p>再整備の方向性等も丁寧にご説明いただきまして、大変理解できる内容でした。また、初期医療の関係、救急が令和3年度に比べて令和4年度は約8,500件に増えている状況で、同じような状況で令和5年も推移しておりますので、ぜひ様々なニーズに対応できるような体制をご協力いただければと考えるところであります。</p>
赤津委員長	<p>拡大して色々なことができるようにというご意見です。</p>
北田委員	<p>昨年から申し上げていますが、地域医療にとって市民医療センターは非常に大切です。私も人間ドック等の受診に満足していますので、スケジュール通りに進み、新しい施設も利用できたらと思っています。</p>
辻村委員	<p>今日のご説明でコンセプトが明確になってよかったと思います。それから細かい点ですが、別の会でお聞きしましたが49床の病床利用率がやはりどう考えても低いと思いますので、実際のキャパシティと運用を今一度よく考えていただきたいというのが正直なところです。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>それから、一般的にやはり公立・私立を問わず病院というのは街の財産であるべきだと思っています。災害時でも拠点になりますのでぜひ予算を確保し、きれいな病院、立派な病院にしていただければと思います。市民のためにもそうあるべき施設ではないかと思っています。</p>
二上委員	<p>街の財産を作ることと利用率を両立してほしいということでした。</p>
二上委員	<p>小児の関係については、オーバーナイトの導入の検討は素晴らしいと思っています。そしてだいが下火になってきましたが、感染症の対応についても計画されて素晴らしいです。所沢市民のために知恵を絞っていただいた結果だと思っています。</p> <p>また健診部門についても、人間ドックについて、アンケートで市民の方から支持されおり、先ほど別の委員からも説明ありましたように、すごく丁寧に対応されているということで私もそう感じています。</p> <p>ただ、新病院の総面積が減っていることは驚きです。現状のレイアウトではなく今度は箱型なのでしょうか。健診部門も同じように実施されて、狭くならないか、大丈夫か心配です。建物や建蔽率^{けんぺいりつ}など用地の問題などあるかと思いますが、ぜひ効率的な運営について徹底していただき、市民が期待するとおりの市民医療センターになるよう期待します。</p>
赤津委員長	<p>市民の期待に応えられるような場所にしていただければと思います。</p>
荻野委員	<p>私も小児科の方でオーバーナイトをやるということで、すごくいいなと思いました。これでどれだけの親御さんが一晩安心して過ごせるかと思うと、良い取り組みだと思います。事業説明の方も具体的になったので、ワクワクしてきました。とても楽しみです。</p>
須藤委員	<p>今日初めて参加させていただいて、勉強不足だなと感じました。単純に思ったのですが、昔から病院は待ち時間があって、待ち時間1時間で診察が5分といった感じが緩和されない。昔からそういうイメージがあり、すごく患者の立場として不安視することがあるのですが、こういったものを少しずつでも改善できればと感じています。これから勉強をさせていただいて、また意見を述べさせていただきたいと思っています。</p>
赤津委員長	<p>待ち時間については工夫なさるかと思いますが頭の痛い問題です。来院された患者さんを拒否することができないのが原則になります。私も午前中で30人くらいは患者を診ていますが、そうすると一人にせいぜ</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
丸山委員	<p>い5分くらいしか時間を割けない。皆さんずっと待っていただいているので早く診察を終えなくてはと気持ち焦っています。いい診療とは思えませんが、来院された方を拒むことはできないのが医療の現状です。</p> <p>仕事から保健センターと連携して、栄養士さんから指導をうけながら調理実習を行うなど保健センターを利用させていただいています。私自身あまり市民医療センターを利用したことがなかったので皆さんの感想を聞き、人間ドックが丁寧とのことなので、ぜひレディースデーに今度利用したいと思いました。</p>
赤津委員長	<p>栄養はとても大切で医食同源で、医療と必ず結びつくと思います。</p>
丸山委員	<p>高齢者が多いので、人間ドックについても受診する必要性などあまり理解していない方が多いかもしれないと思います。</p>
赤津委員長	<p>実は癌の法律はかなり前に成立し予算もつきました。そのあとに循環器、脳卒中の予防の法案も数年前に成立しましたが、そこに予算が一切つかず全く事業が進んでいません。そこには栄養という部分の関わりが当然大きくなりますので、市の皆さんも、きっとそのようなことは頭の中にあるのではないかなと思います。</p>
丸山委員	<p>認知症等の対応はこちらの病院でも診てもらえるのでしょうか。</p>
赤津委員長	<p>内科医がいますので、できる範囲で可能だと思います。ただ、今の認知症の詳しい診断はMRIを撮りますので、そうするとMRIの撮れる医療機関にまず紹介してということになるのではないかと思います。</p> <p>しかしながら、通常の内科医でも道筋をつけることはやりますので、どちらの医療機関でもそれはある程度はできると思います。</p>
平塚委員	<p>丁寧な資料をたくさん作っていただきありがとうございます。頭が下がります。新しい市民医療センターが早くできたらいいなと思います。</p>
扇原副委員長	<p>丁寧にまとめていただきましてありがとうございます。すでに市民向けの説明会等々行っているということですが、どのような意見が出ているのか、伺ってみたいです。</p> <p>また、電子カルテの導入やデジタル投資はどんどん進めていただき、新病院の建設を待たずともやっていただくのがいいと思っています。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
赤津委員長	<p>新病院の建設手順につきましてはイメージができたのですが、保健センターもあり、准看護学院や看護専門学校もあるということで、病気になってからここに来るのではなく、病気になる前からこちらに来ることは必ずあると思うので、エリア全体で健康予防をイメージできる空間になるといいのではと感じています。このエリアに普段から日常的に来たくなるような、例えばウォーキングもでき、ベンチを設置して休める場所もあり、市民医療センターや保健センターのスタッフと日常的に顔が見え、来たくなるような空間というのがあれば市民のシンボルとして民間病院とは差別化ができるといいなと思いました。</p> <p>例えばリハビリではないけど健康遊具があって、食べ物であれば保健センターでおいしい野菜が買える朝市があるみたいな、そういった空間をどうデザインするか、交流の場になるかという視点も取り入れて病院の建設をトータルで考えていただけるといいなと思いました。</p> <p>皆様のご意見をいただいてよい病院を作りたいという願いがよくわかりました。</p> <p>私の意見を少しだけ述べさせていただきますと、私は病院の運営をやっていますので、どうしても辛口になります。病院は黒字でなければ患者を診られないところです。職員の給料を払うことができなければ、どんな良い医療もできない、というのが私の頭の中にあります。ただ、市はその例外で、市税を投入できる。今、市民医療センターには年間4億円から5億円のお金が入っています。すなわち毎日100万円のお金が市民の皆様のために使われている。その自覚をちゃんと職員たちが持っているのか、私はそれが一番気になります。市民のサービスのために存在している。それを全うするために自分たちは努力しなくてはいけないことをやはりすべての人が知るべきです。</p> <p>私たちも診療報酬いただいて、それでお給料もらっているので、半分公僕としての気持ちを持っています。新病院の夢を描くことは素晴らしいことですので、しっかりとしたものができるほしいと思います。けど夢を描いて新病院ができた後は現実として経営が待っています。</p> <p>経営ができる、あるいは市民目線から見て適切な経営状態になっていることが見える形、担当者が代わったら、何年後はもうわからないからいいやという発想で事業が進められるのであれば、それは大きな間違いであると思います。誰々がこの事業に取り組んだとしっかりと名前に刻まれるような事業にしてほしいと思います。</p> <p>意見としては皆さんからいただきましたので、どうぞ淡々粛々、事業を前に進めていただければと思います。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
説明員（武政）	<p>何か事務局、あるいは説明員から補足等がございますか。</p> <p>市民説明会にて出された意見につきまして、補足いたします。令和5年8月5日土曜日に開催した市民説明会ですが、広報ところざわ、市のホームページで周知したほか、無作為抽出1,000名の市民に開催のご案内を送付しました。</p> <p>しかし、当日は早朝から気温の高い日でもあり、参加者は12名でした。参加者の方から出た意見としては、「再編・統合を考えているか」「移転を検討したか」「医師・看護師の人材不足・人材確保についてどのように考えているか」といった質問がございました。</p>
赤津委員長	<p>非常に真っ当な意見で、皆さん頭を悩ませてというのが正直なところかと思います。</p> <p>それでは次の部分に移りたいと思います。</p> <p>令和5年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュール（案）についてご説明をお願いします。</p>
事務局（佐藤）	<p>（資料3 令和5年度所沢市保健医療計画進行管理スケジュールについて説明）</p>
赤津委員長	<p>スケジュールについてはお示しされた通りということで、第2回は11月21日の火曜日、場所は所沢市の保健センターでの開催です。</p> <p>その他、何かご意見等がありましたら、せっかくの機会ですので、所沢の市民の保健医療のためにというものがありませんでしたらお願いします。</p>
委員一同	<p>（意見なし）</p>
赤津委員長	<p>それでは話題提供させていただきます。</p> <p>西部医療圏で救急医療をたくさん担っているのは、埼玉石心会病院です。その次は所沢中央病院、所沢明生病院が救急車の受け入れ台数がきわめて多いところでもあります。</p> <p>所沢明生病院は、椿峰からいなくなってしまう。しかし、現状ではそのあとに敬寿会というところが入っていただけのことになっていますが、この時代の流れの中どのようになるかわかりません。所沢明生病院は、築三十何年経っており、病院の建物はありますが、そのまま使えるのかどうかとか色々段取りがあります。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>出来たら来ていただいて、あの地域の医療を引き続き成り立つようにしていただきたいと思います。</p> <p>もう一つは所沢明生病院が移転した後は所沢美原総合病院になりますが、所沢明生病院は50床、狭山中央病院はたしか120、130床、増床分が40か50床で計220～230床の病院になります。</p> <p>この地域では突如大きな病院ができることになります。そうすると医療需要が非常にドラスティックに動くと思います。どこの病院に患者さんが集まっていく、超救急をやっているところに多分行くということになりますので。正直なところ市民医療センターの担うべき役割も大きく影響を受けるということについて、今後どのようになるのかはわかりませんが、委員の皆様の頭の中に入れておいていただきたいと思います。</p> <p>それでは本日の議事はこれですべて終了です。ありがとうございました。閉会にあたり、扇原副委員長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
扇原副委員長	(副委員長挨拶)
赤津委員長	ありがとうございました。それでは、事務局にお戻しします。
事務局（河西）	<p>ありがとうございました。</p> <p>次回の委員会は11月21日火曜日、保健センターで開催されます。委員会前に体調不良になってしまわれた場合には無理をせず、事務局へご連絡いただければと思います。</p> <p>以上を持ちまして、「第1回所沢市保健医療計画推進委員会」を閉会いたします。</p> <p>(閉会)</p>